

I 実践

1 研究主題

思いやりの心を持ち、互いに認め合い、助け合うことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校では、『「心豊かでたくましく、夢や希望をもって自ら学ぶ生徒の育成」～生徒指導の機能を生かした明るく楽しい学校づくり～』を教育目標としている。それを受け、人権教育の視点として、「誰に対しても思いやりを持って行動できる」「認め合い、助け合って人のために尽くすことができる」の2点を掲げて取り組んできた。

本校児童の多くは、明るく元気な児童が多い。また、友達に優しさをもって接している児童も多くいる。しかし、相手を思いやる配慮に欠けた行動や、友達との関わりの中で自己中心的になり友達とトラブルになることも見られる。

このことを踏まえ、学校の教育活動全体を通して、互いのよさを認め合い、助け合うことのできる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- 豊かな体験活動の実践（異学年交流・福祉体験・ボランティア活動）
- 道德教育の充実
- 人権メッセージや人権書道コンクールへの応募
- 人権教育を意識した学級経営（心の声アンケート、日々の生活を観察等による実態把握）

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の実践

ア とも遊び・あおぞら班活動（異学年交流活動の実施）

毎週水曜日、昼休みと清掃時間をあてて、学級ごとに遊びを決めて楽しく遊ぶ「とも遊び」を行っている。また、あおぞら班活動では1～6年生の縦割り集団を14班編制し、6年生の企画運営による遊び（ドッジボールや鬼ごっこ）をして遊んでいる。運動会では、「あおぞら種目」を設定し、大玉送りを行った。

イ さわやかマナーキャンペーン（あいさつ運動）の実施

年に10回、さわやかマナー週間を設け、昇降口や正門前であいさつ運動を行っている。高学年と低学年の当番の学級の児童が、PTAボランティアと一緒に「おはようございます」と、登校してくる児童に元気にあいさつの声かけ運動をしている。

ウ さわやかマナーキャンペーン（環境ボランティア）の実施

11月にあおぞら班の縦割り集団で、校庭や通学路、近隣の公園（助川城址公園、百兵地公園）の落ち葉拾いや、ゴミ拾いを実施した。

エ 地域の方々との交流

（ア）助川学区大運動会

本校の運動会は、地域コミュニティとの共催で実施されている。〈あいさつ運動の様子〉数多くの地域種目があり、多くの児童が地域の方と一緒に、楽しく競技に参加した。



〈あおぞら班活動の様子〉



〈あおぞら種目の様子〉



(イ) 敬老会への参加（6年生、4年生）

毎年9月に行われる助川学区の敬老会では、6年生の代表児童が式典の司会進行を行い、4年生は合唱やリコーダー演奏、助川ソーラン節の踊りを披露した。



〈敬老会の様子〉

オ 福祉体験の実践（5年生）

毎年、介護老人施設「さくら日立」に5年生が出向き、歌や踊りを披露したり、お年寄りと交流したりした。

カ 命の学習会（4年生）（親子学習会）

助産師の先生と保健師の先生をお呼びして、人の誕生・命の大切さの学習会を開いた。

(2) 道徳教育の充実

各学年とも、めざす児童像にむけて、道徳の時間と他教科や他領域との関連を図り、「わたしたちの道徳」を活用しながら、道徳教育を進めている。今年度は、友達に声をかけてもらって嬉しかったことや親切にしてもらったことを葉っぱに書いて、クラスごとに「あたたかい木」を作成した。各学期数回行い、友達のよさを改めて感じるができる機会となった。

(3) 人権メッセージおよび人権書道コンクールへの応募

5、6年生の全児童が人権メッセージ・人権書道コンクールに取り組んだ。児童ひとりひとりが身近な人権について考えることができた。

(4) 人権教育を意識した学級経営

各学級において、学級活動や授業の中で自分を表現する場を積極的に設定している。ペアやクラスの中で互いのよさを認め合う活動を通して、自己肯定感を高められるようにしている。帰りの会に友達の良いところを発表し、友達の良さに気付かせる場面を設定している学級もある。

3 成果

- ・ 異学年交流を通して、上級生は下級生のことを思いやって声をかけたり、遊びの工夫をしたりする姿が見られた。異学年間のよい交流となった。
- ・ あいさつ運動では、友達や地域の方に対してあいさつをすることができた。また、校内でも学年や他学年の教員に進んであいさつを行う児童が増えた。これからも継続したい。
- ・ 各種行事において地域の方々やお年寄りとの交流を通して、世代の違う人々と自分の思いを通わせることができた。誰に対しても思いやりの心をもって行動することの大切さを感じることもできた。

II 今後の課題

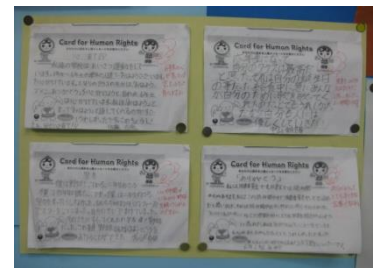
- ・ あいさつを進んで行わず黙って通り過ぎる児童も見られる。あいさつ運動を、運営委員会の児童を中心に引き続き行い、明るい学校づくりに努めたい。
- ・ 児童が様々な体験を通して、人権に対する意識をより高めることができるよう、学校生活の場で人権教育の充実を図っていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

- ・ 「あたたかい木」では、友達のよさを改めて感じる事ができた。
- ・ 人権メッセージの掲示をして、友達の考えや思いを知る機会となった。



〈あたたかい木〉



〈人権メッセージの掲示〉